

JP56-164218U

(57) Claims

A light-shielding cover with earmuffs, comprising an arc-shaped head holder formed in an elastic component, a light-shielding cover, and earmuffs,

wherein the head holder and the light-shielding cover are attached to be free to collapse at positions of the earmuffs.

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 02 C 7/16  
A 41 D 21/00

識別記号 庁内整理番号  
7174—2H  
7030—3B

④ 公開 昭和56年(1981)12月5日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑤ 耳当て付遮光カバー

小金井市本町4-1-1 株式会社  
ダイアイデイ研究所内

② 実 願 昭55—64755

⑦ 出 願 人 ダイワ精工株式会社

② 出 願 昭55(1980)5月12日

東久留米市前沢3丁目14番16号

⑦ 考 案 者 中村秀生

⑥ 実用新案登録請求の範囲

弾性体で円弧状のヘッドホルダーと遮光カバーと耳当てとを備え、ヘッドホルダーと遮光カバーとを耳当て位置で両者を折畳み自在に取りつけた耳当て付遮光カバー。

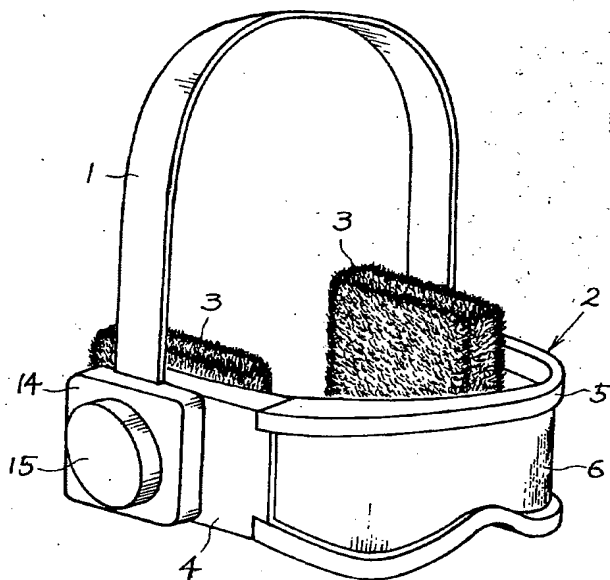
図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例が示され、第1図は耳当て付遮光カバーの外観斜視図、第2図は要部分

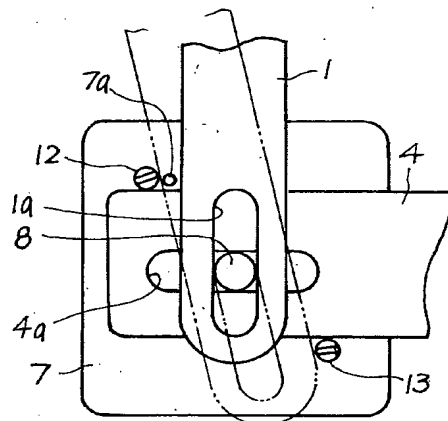
解斜視図、第3図は一方の耳当てとヘッドホルダー、遮光カバーの結合部の断面側面図、第4図は耳当てとヘッドホルダー、遮光カバーの結合位置説明図である。

1……ヘッドホルダー、1a、4a……長孔、2……遮光カバー、3……耳当て、8……螺子、15……止めナット。

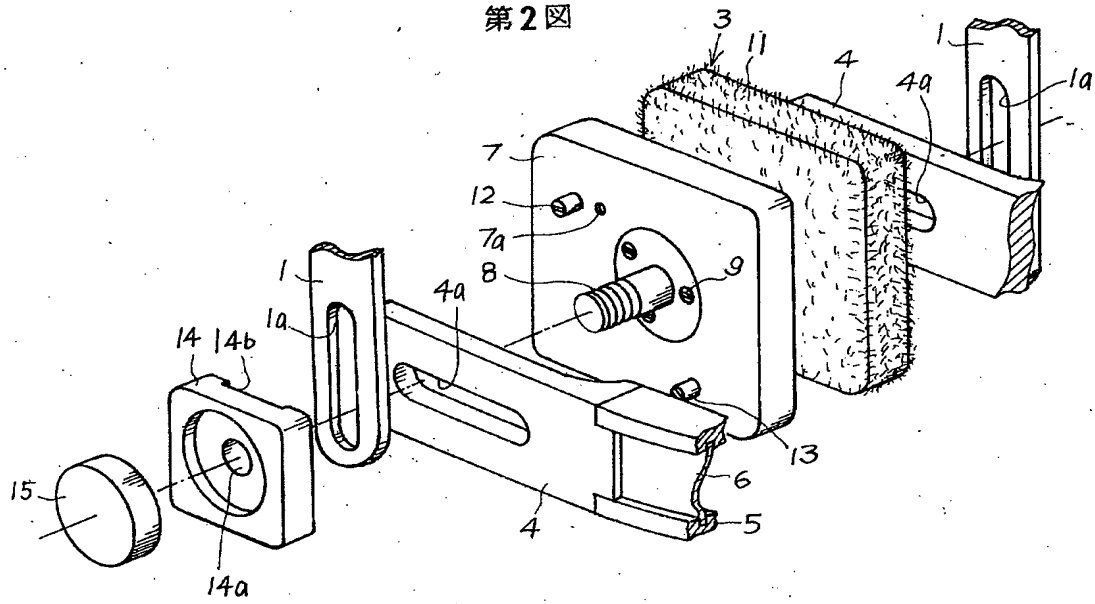
第1図



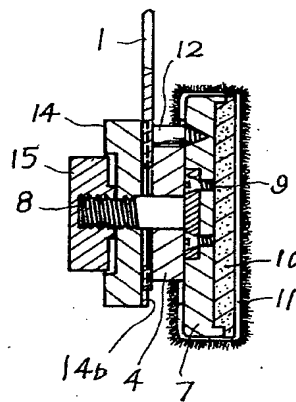
第4図

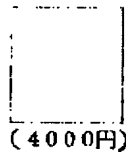
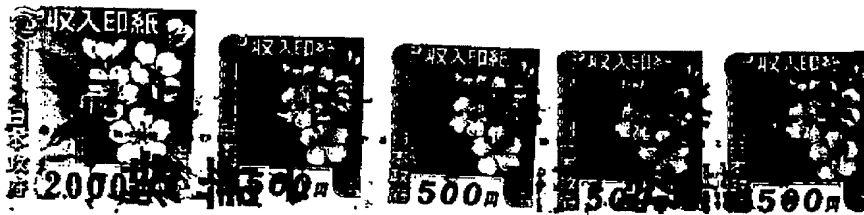


第2図



第3図





実 用 新 案 登 録 願

昭和55年 5 月12日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

1. 考案の名称

耳当て付遮光カバー

2. 考案者

住所 東京都小金井市本町4-1-1

株式会社デイアイデイ研究所内

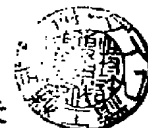
氏名 中 村 秀 生

3. 実用新案登録出願人 〒180-03

住所 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

名称 ダイワ精工株式会社

代表者 杉 本 辰 夫



4. 添付書類の目録

- (1) 明 細 書
- (2) 図 面
- (3) 願 書 副 本

1 通

1 通

1 通

方式  
審 査



55 064755

164218

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 耳当て付遮光カバー

### 2. 実用新案登録請求の範囲

弾性体で円弧状のヘッドホルダーと遮光カバーと耳当てとを備え、ヘッドホルダーと遮光カバーとを耳当て位置で両者を折畳み自在に取りつけた耳当て付遮光カバー。

### 3. 考案の詳細な説明



この考案は、耳当てと遮光カバーを一体に取りつけた耳当て付遮光カバーに関する。


近年冬期にはヘッドホルダーに固定された耳当てが防寒用に用いられると共に、この耳当てがスキーにも携行されて使用されている。他方スキーでは眼の保護にサングラスやゴーグル等の遮光カバーが使用されているが、耳当てと遮光カバーはいずれも別体にスキーヤーの頭部に装着されているので、別体の両者を携行・装着することは煩わしい欠点がある。またゴーグルの装着時髪形を崩す欠点がある。

本考案の目的は、装着と携行が容易な耳当て付


遮光カバーを提案することにある。

本考案の特徴は、弾性体で円弧状のヘッドホルダーと遮光カバーと耳当てとを耳当て位置でヘッドホルダーと遮光カバーを折畳み自在に取りつけたことである。

以下、図示の実施例によって本考案を説明する。



第1図で耳当て付遮光カバーは弾性体で円弧状のヘッドホルダー1と遮光カバー2と耳当て3が耳当て位置で取り付けられている。



上記ヘッドホルダー1は金属材料や合成樹脂材で帯形に形成され、両端には第2図のように夫々長孔1a、1aが穿設されている。

上記遮光カバー2は両端に合成樹脂材で基部4、4が夫々設けられ、両基部間にゴム材などの弾性体で形成された枠5が固定されて、枠5内に着色樹脂材の遮光板6が取り付けられている。両基部4、4には長孔4a、4aが穿設されている。


上記耳当て3は合成樹脂材の当て板7の一侧に螺子8がインサートモールド又はビス9で固定され、他側には緩衝材兼用保温材10が取り付けら

れ全体が保温布や毛皮 1 1 で覆われている。当て板 7 の螺子 8 外方には位置決めピン 1 2、1 3 が螺着されている。

上記耳当て付遮光カバーが組み立てられるときは、当て板 7 の螺子 8 が遮光カバー 2 の基部長孔 4 a とヘッドホルダーの長孔 1 a に挿入された後、第 3 図のようにヘッドホルダーに化粧板 1 4 が添設されて螺子 8 が化粧板の段付透孔 1 4 a に挿入され、螺子 8 に止めナット 1 5 が螺合されて締め付けられる。化粧板 1 4 にはヘッドホルダー 1 が嵌合されるヘッドホルダーの厚さより浅い溝 1 4 b が刻設されている。化粧板 1 4 は省略してもよい。

上記耳当て付遮光カバーが携行されるとき、止めナット 1 5 が緩められ、遮光カバー 2 がヘッドホルダー 1 と重ね合わされるように回動されて折り畳まれ、止めナットで締め付けられる。

耳当て付遮光カバーが使用されるときには、止めナット 1 5 が緩められて遮光カバー 2 が回動され、ヘッドホルダー 1 と略直角の位置に引き出されてスキーヤーの頭部に装着される。このとき頭



部の大きさに合わせてヘッドホルダー 1 と遮光カバー 2 が上下及び前後に移動されて後止めナット 1 5 が締めつけられる。上記当て板 6 に設けられた位置決めピン 1 2、1 3 がヘッドホルダーと遮光カバーの開角度を規制し、第 4 図のように位置決めピン 1 2 が 2 個設けられたネジ孔 7 a の後方位置に螺合されたときは、ヘッドホルダーと遮光カバーは 90°以上の開角度に回動される。また化粧板 1 4 に溝 1 4 b を設けると化粧板の回動位置がヘッドホルダーと合致される。

本考案は上述のように構成されたから、携行が便利で、一旦装着状態にヘッドホルダーと遮光カバーが位置決めされると、スキーの途中での装着、装脱が容易であり、着脱の折や従来のようにゴーグルの止めバンドで髪を押しつけて髪形を崩す等の欠点が解消され、手軽に用いて耳の防寒、強い光線からの眼の保護に極めて有用な耳当て付遮光カバーを提供することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例が示され、第 1 図は耳



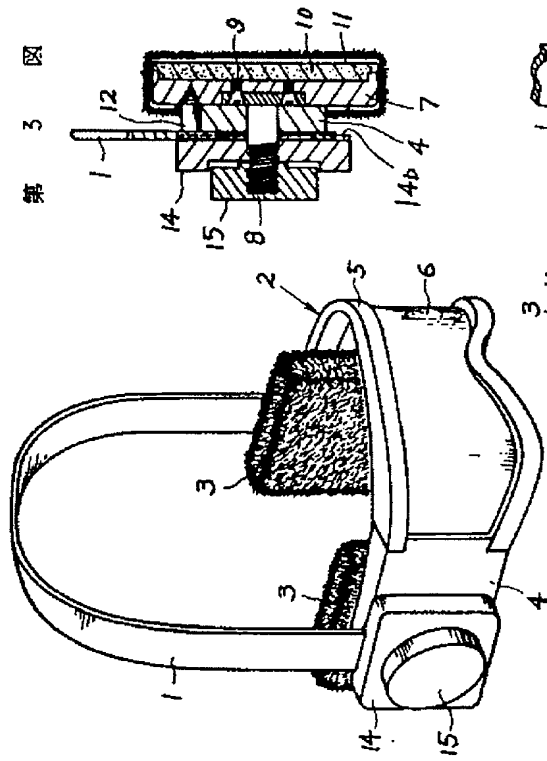
当て付遮光カバーの外観斜視図、第2図は要部分解斜視図、第3図は一方の耳当てとヘッドホルダー、遮光カバーの結合部の断面側面図、第4図は耳当てとヘッドホルダー、遮光カバーの結合位置説明図である。

1…ヘッドホルダー、1 a、4 a…長孔、2…遮光カバー、3…耳当て、8…螺子、15…止めナット。

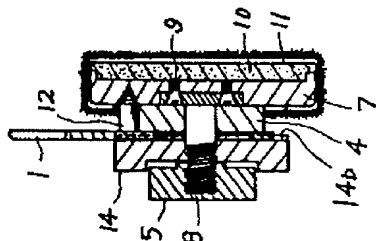


実用新案登録出願人 ダイワ精工株式会社

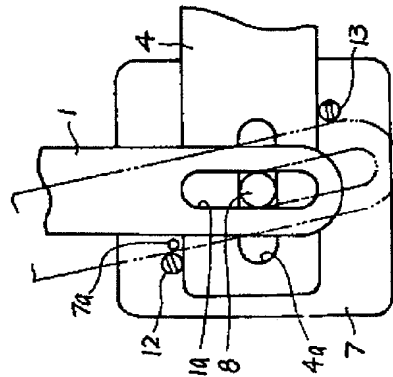
第 1 図



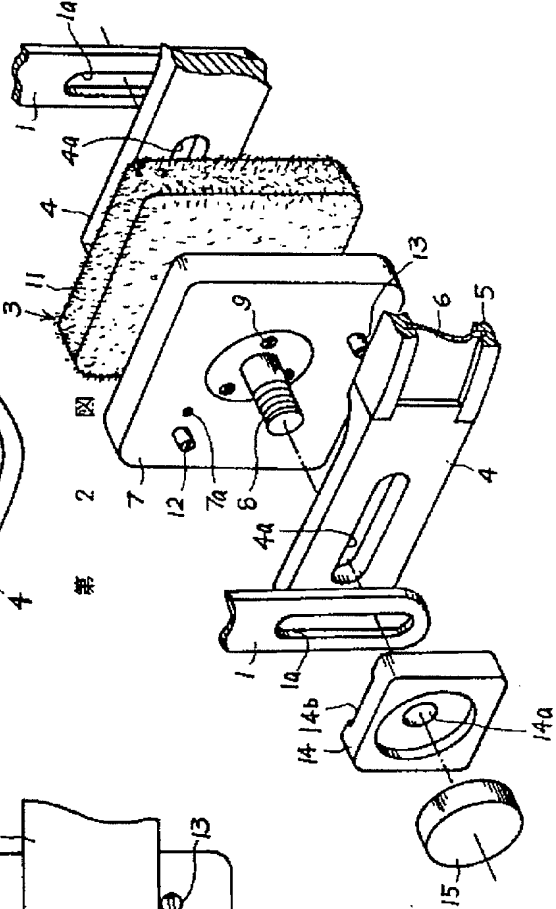
第 3 図



第 4 図



第 2 図



164218